



撮影：朝日女子中学校・高橋早子(5/11)

“新しい自分”に会える、それがトライアスロンの魅力。

トライアスリート・高橋早子さん(富士通)

1つの競技で、スイム・バイク・ランという3つの種目を連続して行い、ゴールを目指すトライアスロン。この過酷な競技で、次代の日本代表を牽引する若きエースが高橋早子さんだ。

トライアスロンが趣味だという父親に、幼いころから手ほどきを受けていた高橋さん。高校時代に本格的にトライアスロンを始めること、めきめきと実力をつけ、ジュニアアカテゴリーで日本代表に選ばれるまでになった。その急成長の秘訣は、レースを楽しむことにあるという。

「トライアスロンは、毎回コースや気候が全然違うんです。どのレースにも発見があり、新しい自分”に会えるのが、楽しいですね」

法政大学時代も日本学生選手権で4度優勝し、世界大会でも優秀な成績を取った。順風満帆に見える競技歴の中で、大きな挫折を味わったのが、2016年の日本代表の落選。しかし、高橋さんはそれすらも、自らの成長のさっ

かけと捉えた。

「ショックでしたが、それよりも、もっと実力をつけたいという思いが強く、落選後はたくさんレースに出場しました。深く落ち込んでいる暇なんてなかったですね(笑)」

すぐに照準を切り替え、8月にスイスで行われた世界大選手権で優勝を勝ち取った高橋さん。現在は、アメリカのサンディエゴを拠点に、世界中のレースに出場している。レースで日本に来たとき、高橋さんの地元・仙川で古くからの友人に会うことがなにより気分転換だそう。

「朝日小学校から法政大学まで16年間も通ったので、仙川駅周辺は私の学生時代の象徴です。懐かしさに浸って元気をもらっています」

高橋さんの次なる目標は、やはり、2020年だ。

「日本の女子選手は十分メダルを狙えます。私はレースをリードし、主導権を握れるような強さを持った選手を目指して、もっともっと成長していきたいです」